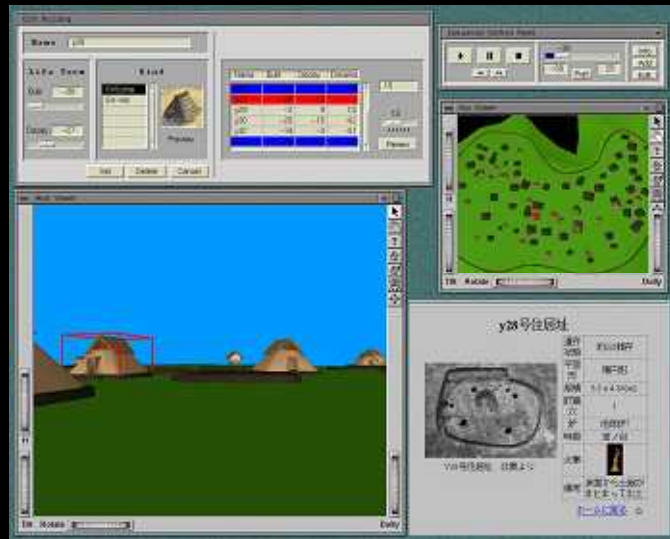


文化遺産のデジタル情報資源整備 に関する海外動向

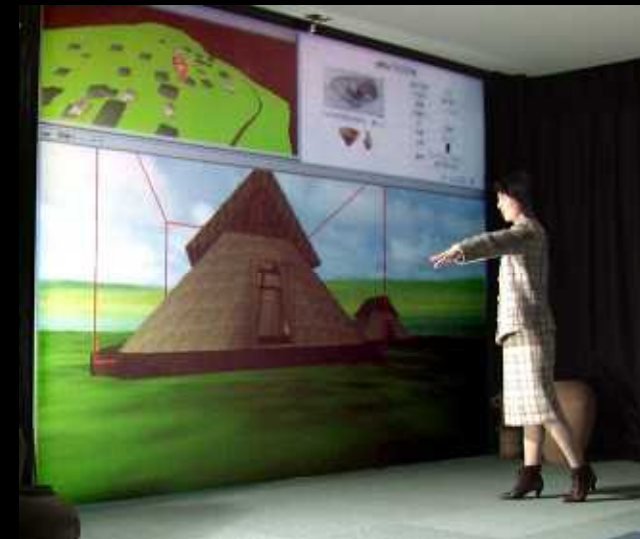
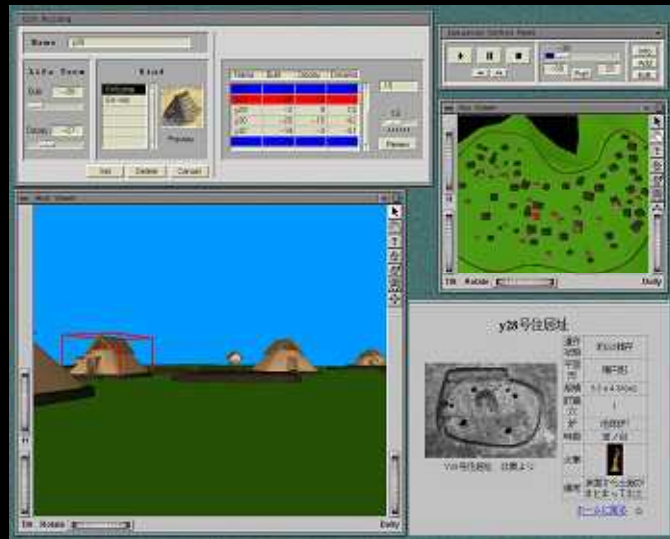
独立行政法人情報通信研究機構 (NICT)
門林 理恵子

これまで(1) Meta-Museumの提案

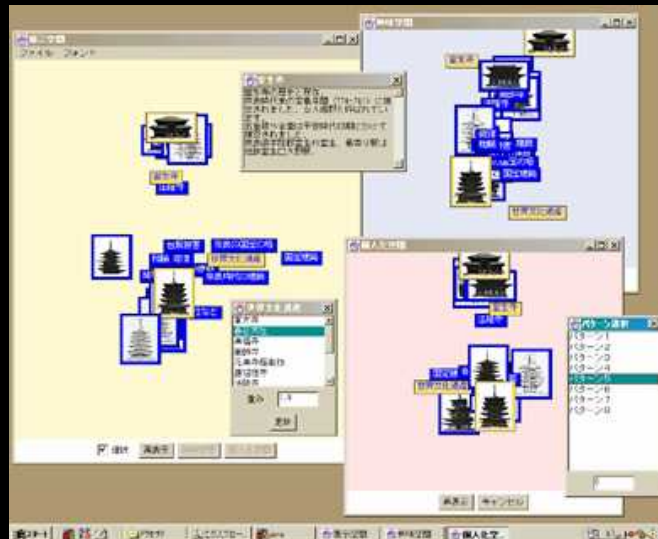
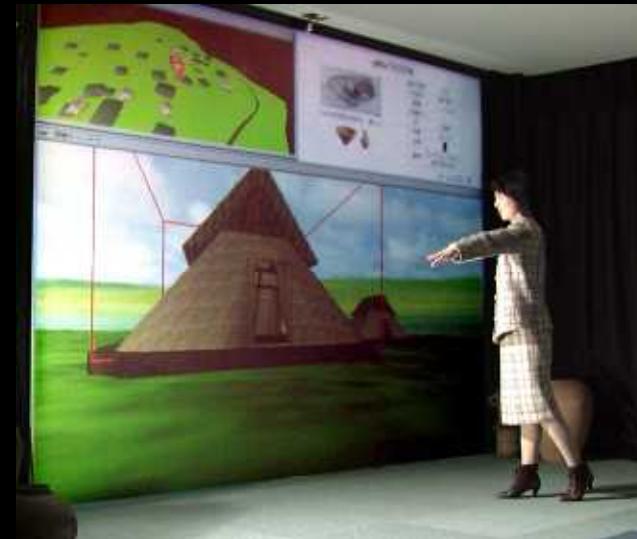
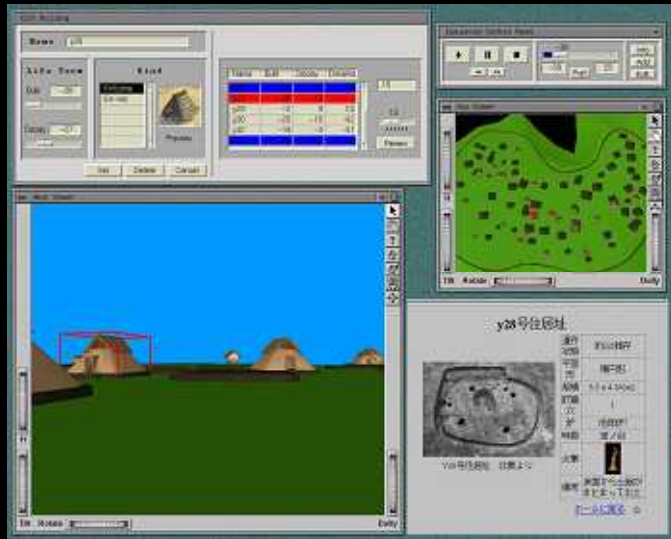
これまで(1) Meta-Museumの提案



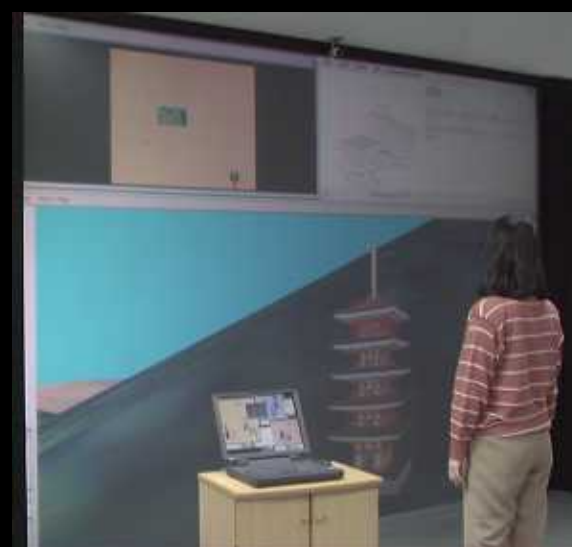
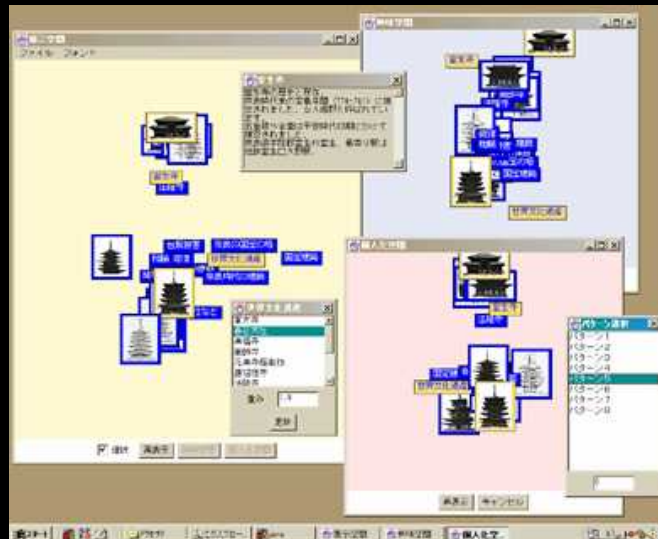
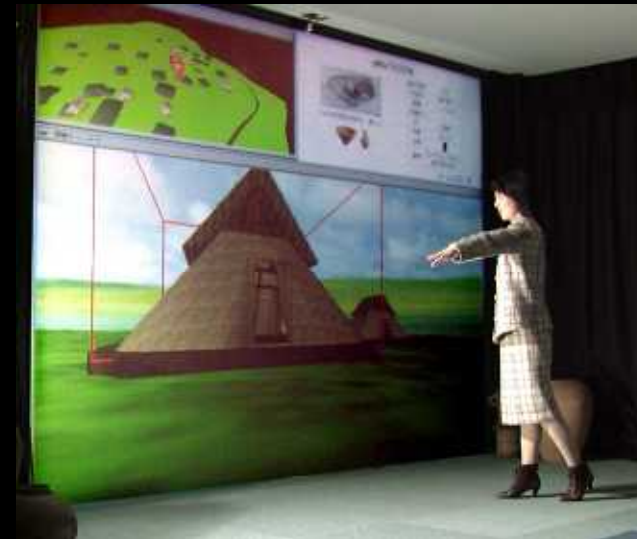
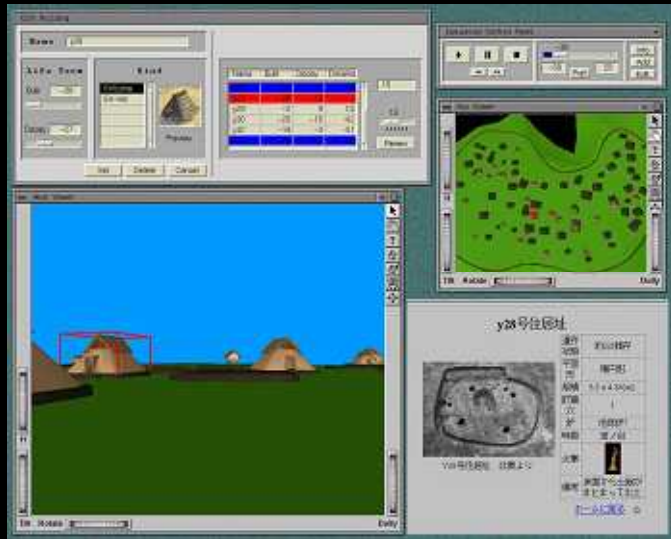
これまで(1) Meta-Museumの提案



これまで(1) Meta-Museumの提案



これまで(1) Meta-Museumの提案



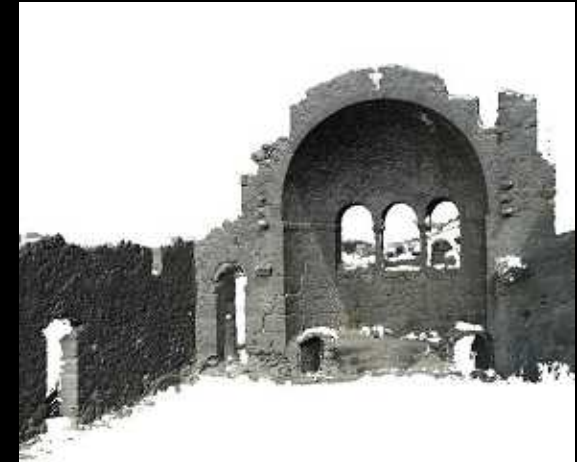
問題1

インターネットでアクセスできる
デジタルの
データがない

考古学では
見つからない $\neq$ 存在しなかった

デジタル情報では
見つからない $=$ 存在しない

これまで(2) 3次元計測

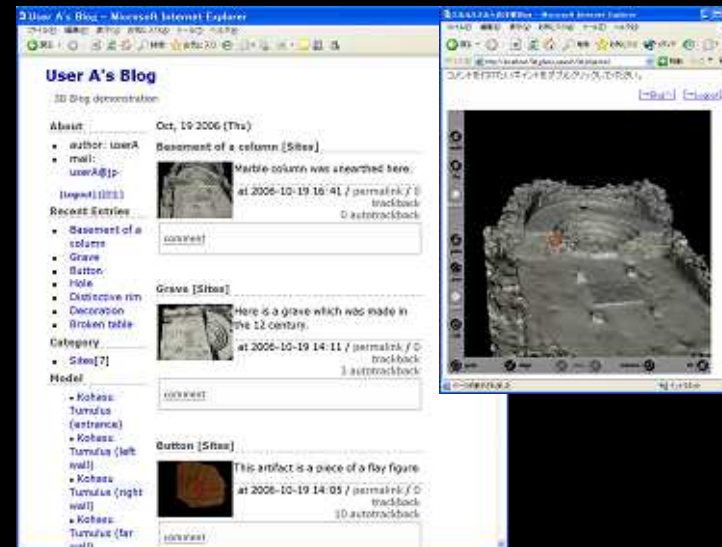
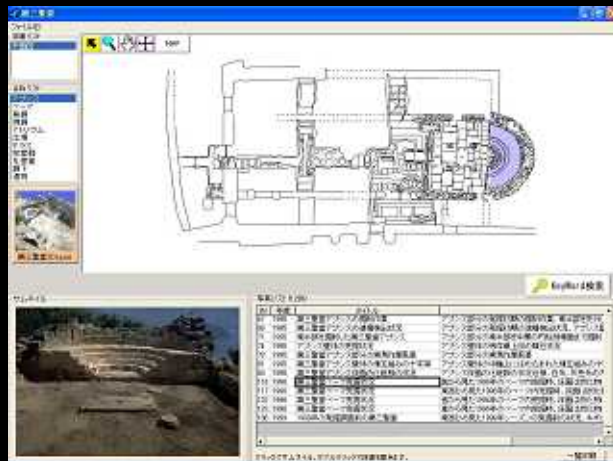


これまで(2) 3次元計測成果の利用

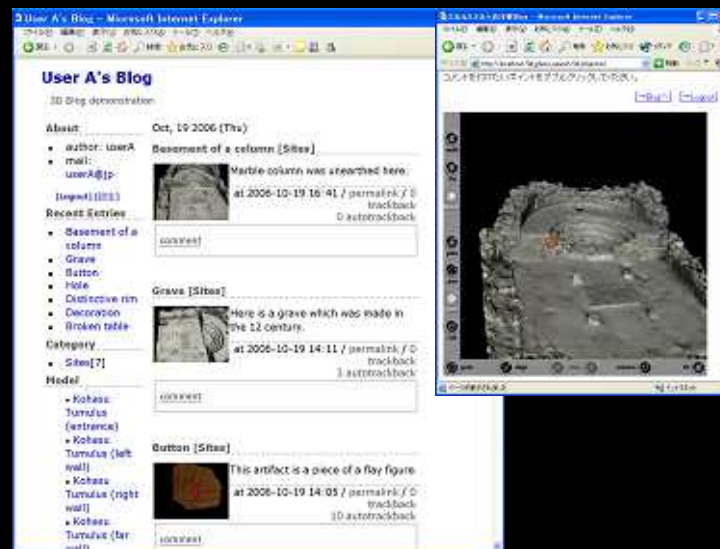
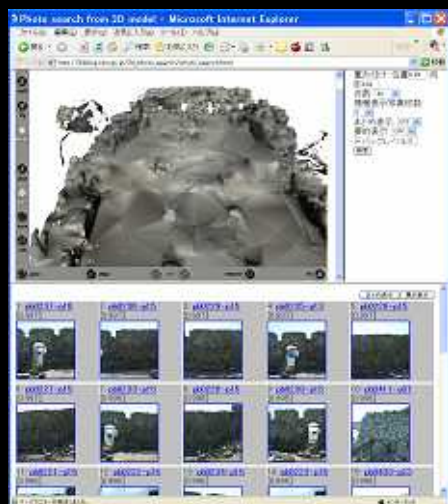
これまで(2) 3次元計測成果の利用



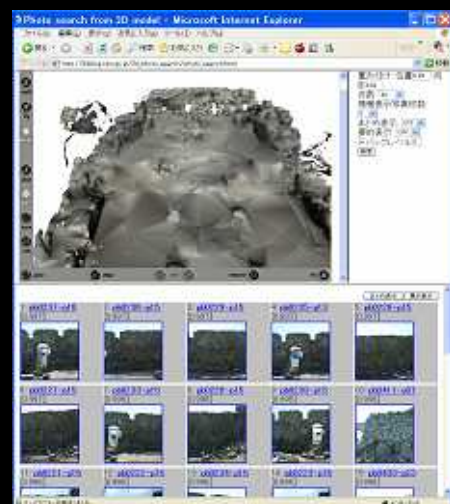
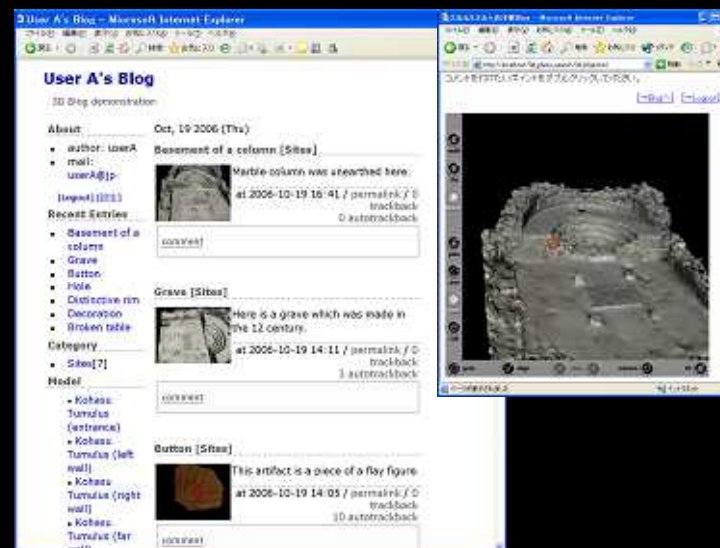
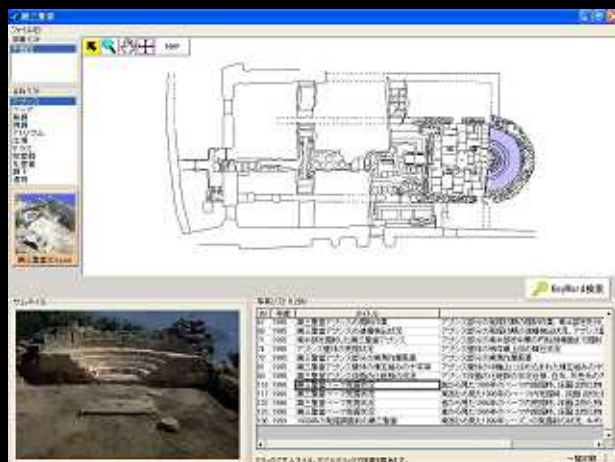
これまで(2) 3次元計測成果の利用



これまで(2) 3次元計測成果の利用



これまで(2) 3次元計測成果の利用



問題2

どのように使うのか

データの存在をどうやって知らせるか

データの信頼性

海外動向理解のためのキーワード

- Open
- Transparency
- Stakeholders
- Interpretation
- Communication
- Standards

オープンであるとは

- 公開されている, アクセスが可能である
- 利用可能なデータ・ファイル形式である
- 編集可能である
- 信頼できる

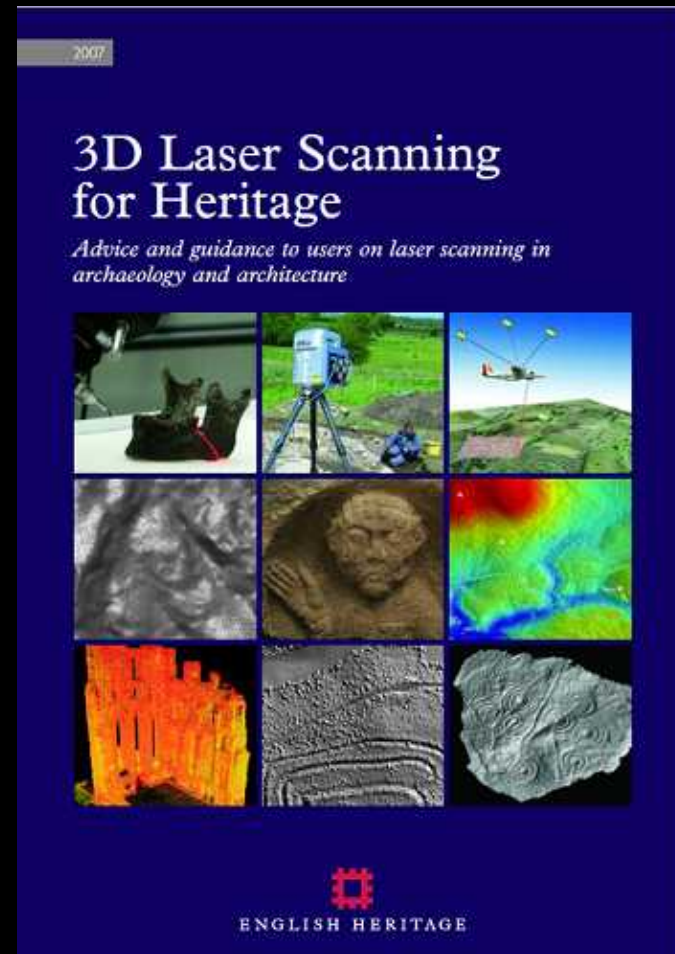
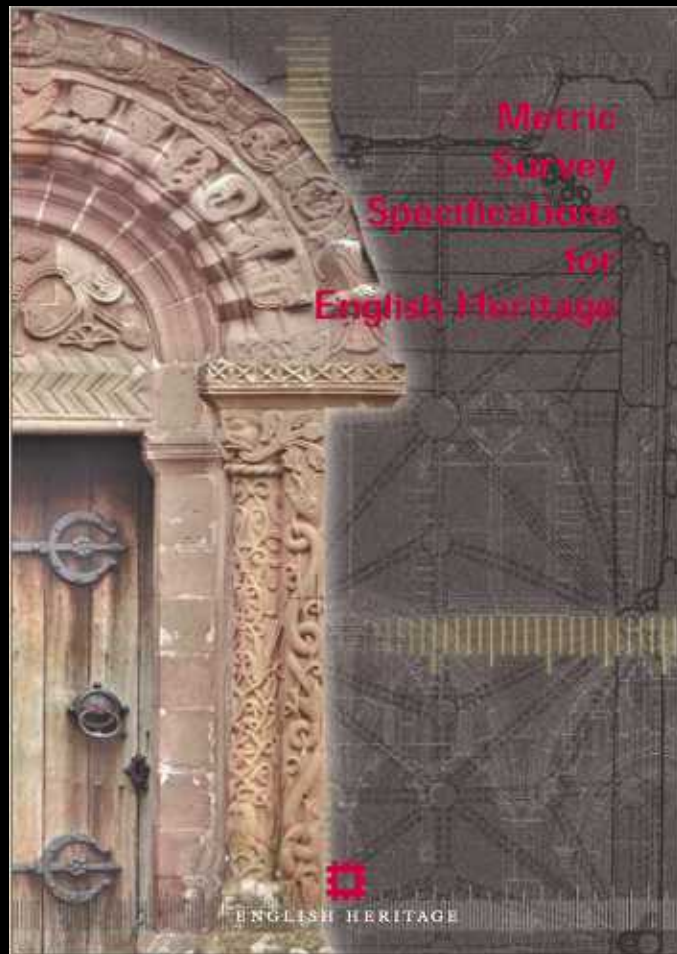
背景

- 技術の進歩
- 多くの3次元データ (3次元モデル, VRアプリケーション等) が非公開
- Virtual Archaeology
- 学術的価値はあるのか
- ニーズとシーズのギャップ
- 重複投資

標準・ガイドランの動向

- English Heritage
- AHDS
- CIDOC CRM
 - ISOになった
 - 3次元モデルへの拡張
- CIDOC
 - 第2版を作成中
- CEN / TC 346
- RecorDIM

English Heritage



AHDS Guides to Good Practice

- Archiving Aerial Photography and Remote Sensing Data
- Geophysical Data in Archaeology
- CAD
- Excavation and Fieldwork Archiving
- GIS
- Creating and Using Virtual Reality

AHDS (Arts and Humanities Data Service)

CEN / TC 346

- CEN (European Committee for Standardization)
- TC 346 (Technical Committee for the Conservation of Cultural Property)
- **文化遺産の保存に関するヨーロッパ標準の策定のための活動**
- **5つのワーキンググループ, 15のワークアイテム**
- **WG1, WG3, WG4が2004年6月, WG2が2005年3月, WG5が2005年6月の設立**

RecorDIM

- ICOMOS, GCI, CIPAが2002年に開始した5年間の国際的プロジェクト
- 文化遺産にかかわる情報の利用者と提供者との間のギャップを埋める
 - 情報の利用者
 - 研究や保護計画の策定, 文化遺産の維持管理などを専門とする保存の専門家, 低価格の記録方法と道具を用いる
 - 情報の提供者
 - 写真測量, GIS, 3次元レーザースキャニング, 3次元モデリングなどを専門とする文化遺産の記録作成者, 最先端の記録道具と技術を使う
- CIPA-RecorDIM Phase-II Initiative
 - 2008年から2012年
 - 文化遺産のドキュメンテーションのための国際標準の開発

EPOCH

- European Research Network of Excellence in Processing Open Cultural Heritage
- 2004年4月から4年間, 予算7,880,000ユーロ
- 技術側のシーズが先行し, 情報技術の専門家が主導権を握って各種のデジタル化プロジェクトが進められてきたことへの批判
- ステークホルダーおよびそのニーズ
- リサーチアジェンダ (2007年2月14日最終版)
 - Use-inspired basic research
- パイプライン
- 標準化

EPOCH: 議論のための視点

ステークホルダー

1. 政府機関
2. 地方行政機関
3. 文化遺産サイトや文化遺産の研究や教育にかかわる組織
4. 関連コミュニティ
5. 観光
6. 教育機関

パイプライン

1. プロジェクトデザインと事前研究
2. データ取得
3. 解釈と分析
4. 学術発表とアーカイブ化
5. 一般への公開

ロンドン憲章

- 文化遺産の研究およびコミュニケーションにおける3次元可視化の利用の目的と原則を定義する
 - 知的完全性, 信頼性, 透明性, ドキュメンテーション, 標準, 持続性, アクセス
- 透明性の確保
 - 元になったデータの信頼性, 最終的な結果に至るまでの議論の妥当性などが評価可能でなければならない
- Paradataの記録
 - 研究の過程において生み出された知的財産. たとえば議論のメモなど

ICOMOS Ename憲章

- ICIP (International Scientific Committee on Interpretation and Presentation) , ICOMOS
- 2007/7/19にICOMOS 執行委員会に提出, 10月の執行委員会会議で承認されれば, 2008年の大会へ提出され承認される運び

The ICOMOS Charter for the Interpretation and Presentation of Cultural Heritage Sites

PROPOSED FINAL DRAFT

Revised under the Auspices of
the ICOMOS International Scientific Committee
on Interpretation and Presentation

10 April 2007

Preamble

Definitions

Objectives

Principles

標準・ガイドランがどうして問題か

- 誰かが作るのを待てばよい？
- 3次元計測のプロセスの標準化の必要性 (EPOCH)
- ワークフロー全体を標準化
 - certified workflow processを作るツール. 他のデータ作成者が検証できるように.
- 研究方法の違いが反映できない
- 日本の実情にあったガイドラン・標準が必要

関連組織

- ICOMOS: International Council on Monuments and Sites
- ICIP: Int'l Comm. on Interpretation and Presentation of Cultural Heritage Sites
- ISPRS: International Society of Photogrammetry and Remote Sensing
- CIPA: International Committee for Architectural Photogrammetry
 - Heritage Documentation
 - ICOMOSとISPRSが共同で設立
 - 2年に1回, 大会を開催 (2007アテネ, 2009京都)

提案

- 日本におけるステークホルダーの認知
- 3次元計測・ビジュアライゼーションに関するポータル
- 海外動向の共同調査・紹介

終わりに

- 文化遺産のデジタル情報資源の整備にあたり、オープンであること、学術的な信頼性が保障されていること、データの検証手段が提供されていることが大事
- 日本の文化遺産の調査・研究・管理等にかかわるプロセスに応じた標準・ガイドライン作りが必要